研究所長ご挨拶

酪農総合研究所
所長　津田知亮

2025年5月、雪印メグミルクグループは創業100周年を迎えると同時に、私たち酪農総合研究所は創立50周年を迎えます。これまで築き上げられた伝統と知識を次世代に受け継ぎながら、酪総研創立時に掲げた「酪農による健土健民の理想の実現」をさらなる高みに導き続ける所存です。 今後とも酪農生産基盤の維持・強化のための調査研究や経営分析等の取り組みを推進していきますので、酪農乳業関係者の皆様方のご指導、ご鞭撻を心よりよろしくお願い申し上げます。

酪総研創立の歴史

初代所長 大原久友
（帯広畜産大学名誉教授）

酪農総合研究所 創立総会
（昭和51年3月15日）

酪農総合研究所は1976年（昭和51年）に当時の雪印乳業株式会社の創立50周年記念事業の一環として設立された、わが国唯一の民間による独立した研究機関であった。2005年（平成17年）の創立30年の節目を持って株式会社を解散。以後、雪印乳業の社内研究所として事業を継承し現在に至る。

酪農による健土健民の理想の実現

酪農総合研究所は、主体性と研究内容の客観性・普遍性を旨としています。北海道、都府県を問わず全国の酪農・乳業を対象に情報を収集し、酪農に関する技術・経営・経済・政策・生活など各分野の調査研究を通じて、わが国酪農の発展と、酪農家の経営安定に寄与することを目的としています。具体的な内容については以下の図をご参照下さい。

酪農総合研究所の基本方針及び研究課題

基本方針　基本方針酪農産業に関る幅広い分野の科学的・実践的調査研究とその成果の普及を通して、わが国酪農の発展と食糧の安定的需給に寄与してまいります。

基本姿勢　公共性・独立性の高い調査研究活動を実施することを基本姿勢といたします。

研究課題
・酪農生産に間接的に関係するもの
（1）わが国の酪農政策に関する調査研究
（2）わが国の生乳及び牛乳・乳製品の需給と消費に関する調査研究
・酪農生産に直接関係するもの
（3）酪農経営の安定的向上に関する調査研究
（4）国産飼料の生産強化と有効利用に関する調査研究
（5）乳牛飼養管理の向上に関する調査研究

酪農サポート
（1）研究成果の普及・推進
（2）経営サポート（経営改善・自給飼料生産・乳牛飼養管理等）

広報活動
（1）出版・HP運営・講演・シンポジウム等の開催
（2）酪農と乳の歴史館の活用

グループ各社と連携し総合力で酪農生産への貢献を実践

・酪農生産者
・消費者等
・ステークホルダーからの課題

政策からの課題

助言

当社グループからの課題

酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針、等

【酪総研選書】図書シリーズのご案内

酪農総合研究所での研究成果や最新の酪農情勢に関わる話題について企画・調整を行い、デーリィマン社から「酪総研選書」として発刊しています。ここでしか購入できない貴重な資料となります。この機会に、ぜひご購入を検討されてみてはいかがでしょうか？酪総研選書のご購入は、以下の二次元コードをご参照下さい。皆様のご購入をお待ちしております。

躍動する中国の酪農乳業と生乳流通
￥3,080（税込）

最新版 目で見る牧草と草地
￥2,619（税込）

増強版 生乳流通と乳業
￥2,343（税込）

㈱北海道協同組合通信社
（ＤＡＩＲＹＭＡＮ）

【酪総研HP】調査・研究の普及

酪総研ホームページでは、関係者の方に酪農に関する調査・研究報告の掲載や、酪総研シンポジウムの動画配信などを行っております。詳しくは下記の二次元コードをご参照下さい。

雪印メグミルクの存在意義・志（企業理念）

「健土健民（けんどけんみん）」
当社の創業者のひとりである黒澤酉蔵は「酪農は大地の力を豊かにし、その豊かな大地から生み出された牛乳・乳製品は、最高の栄養食品として、健やかな精神と強靭な身体を育む」と唱えた。黒澤は「健土健民」を掲げ、当時の社会課題の解決に果敢に挑みました。

制作：酪農総合研究所

●住　所
〒065-0043
北海道札幌市東区苗穂町6-1-1
6-1-1 Naebo-cho Higasi-ku, Sapporo City, Hokkaido　065-0043,JAPAN

●連絡先
TEL　011-704-2131
FAX　011-704-2417

Coming Soon!

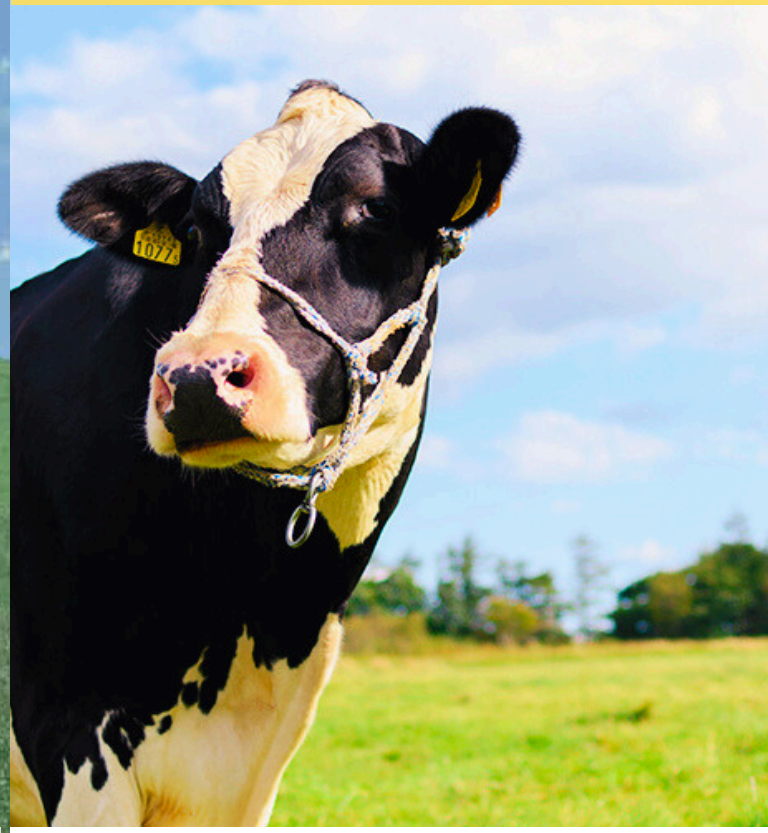
酪総研HP二次元コード

「酪農の未来を拓くお手伝い」

要 覧

ORGANIZATION CATALOGUE

～おかげさまで創立50周年を迎えました～



酪農総合研究所
Research & Development Center For Dairy Farming

Love Earth. Love Life.
雪印メグミルク

●主な研究事業

酪総研シンポジウム（1978年～）

酪農乳業をめぐる諸問題をテーマに取り上げ、皆様と情報共有を図るとともに、我々の研究内容及び諸活動を多くの方々に理解を深めて頂き、その普及を図ることを目的に1年に1回「酪総研シンポジウム」を開催。地域酪農の課題解決に向けた討議を行い、知見の共有・普及に努めている。

実証圃場（2008年～）

酪農経営の持続的発展に重要な、自給飼料の生産・利活用に立脚した経営であることを基本とし、関係機関のご協力の下、自給飼料生産圃場を選定して土壌管理、植生改善、サイレージ調整技術等の自給飼料生産と関連技術の利活用のための調査研究を実施している。

経営実証農家（2009年～）

持続的酪農経営に関する調査研究で、自給飼料の生産拡大・利活用・総合的な飼養改善・経営分析診断により、酪農経営の安定化と向上を目指す取組み。対象酪農家と共に「5年間」という中長期スパンに渡り、関係機関・団体と連携し、酪総研が総合推進役となり事業を推進している。

経営分析診断（2020年～）

酪総研版の経営診断を行い、酪農家の経営支援を側面的に支援している。個々の酪農経営・技術に関する客観的データを分析・診断をし、酪農家の経営安定へのサポートに向け、対象農家からのヒアリングや各種データの収集を行い、経営分析を行っている。

大学との共同委託研究（2021年～）

大学などの専門研究機関と共に共同委託研究を実施している。牛舎環境と乳用牛における生産性の研究やメタンモニタリングのベースライン調査を積極的に行っている。また、研究の内容の一部は論文でも発表し、2025年には北里大学と当研究所にて共催セミナーを開催した。

他社とのGHG削減に向けた研究（2021年～）

温室効果ガスの一種であるメタンガス削減は世界的にも関心が高まっており、酪農家だけでなく乳業メーカーも一体となった取り組みが求められている。「持続可能な酪農経営の実現」に向け、乳牛のメタン削減に関する調査研究を行っている。

日本酪農青年研究連盟（酪青研）への支援

毎年行われる「日本酪農研究会」での意見事例発表におけるアドバイザーや各地方連盟で開催される「経営分析勉強会」などのサポート・支援を行っている。

●主な研究成果

過去の実証圃場の取組み

「気象リスクを分散する自給飼料生産の取組み」　北海道大樹町
「トウモロコシサイレージ利用による自給飼料率アップ」　北海道興部町
「OG・PR混播草地の栽培法確立」　北海道大樹町
「既存牧草地除草処理によるOG・PR混播による植生改善」北海道幌延町
「飼料用トウモロコシの不耕起栽培」　静岡県富士宮市
「トウモロコシ栽培跡地へのフロストシーディングによる牧草地造成」北海道厚真町
「アルファルファ（ケレス）導入による草地の経年変化、栄養価の検証」北海道別海町
「富士宮市地域における植生改善」　静岡県富士宮市
「耐病性F1トウモロコシ、需要喚起対策」　岩手県岩手町
「リードキャナリーグラス主体草種、簡易更新の技術確立と普及」　北海道八雲町

経営実証農家の取組み

第Ⅰ期　2009～2011年度（フォロー：2012～2013年度）大樹・中標津町
第Ⅱ期　2012～2014年度（フォロー：2015～2016年度）興部町
第Ⅲ期　2016～2018年度　興部町
第Ⅳ期　2017～2021年度　標茶町
第Ⅴ期　2024～　実施中　由仁町

酪総研シンポジウム

2025年１月30日開催
「今こそ飼料の国産化を！PARTⅢ」　～次の一手を考える～
2024年2月1日開催
「今こそ飼料の国産化を！PARTⅡ」　～飼料自給率向上に向けた課題とは～
2023年2月2日開催
「今こそ飼料の国産化を！」　～それぞれの地域で出来ることを考える～
2022年2月3日開催
「酪農現場のリスク管理を考える！PARTⅢ」　～見えない敵から牧場を守る～
2021年2月～３月開催（WEB開催のみ）
「酪農現場のリスク管理を考える！PARTⅡ」　～暑熱を考える～
2020年1月30日
「酪農現場のリスク管理を考える！」　～気候変動に備える～

主な実績と成果（学会発表・調査研究・外部発表）

●国産飼料の自給率を高めるために考えること
　－政策・飼料関係予算の変遷と統計数値から見えてくるもの－　2025年10月
●乳用子牛の第一胃発達指標としての呼気中メタンガス濃度の有用性
　日本獣医学会 学術集会　2025年9月
●酪農牛舎における低コスト測定技術を活用したメタンガス濃度のフィールド調査
　獣医学術 北海道地区学会　2025年8月
●酪農暑熱対策セミナー ～“異常な暑さ”が通常になる時に備えて～
　北里大学との共催セミナー開催　2025年３月
●畜産関連新技術発表会
　「既存経年TY牧草地へのPR追播による植生改善　経営実証農家の取り組み内容」
●新規参入者の経営を軌道に乗せる手法についての一考察　経営実証農家の取組みから
　地域と農業　2024年4月号
●財務と会計学び経営改善を
　DAIRYMAN（連載）
●実証 農場改善 経営実証農家の取組み
　DAIRYJAPAN（連載）
●経営実証農家の取組み内容
　ワールドデイリーサミットポスター発表
●酪農経営における草地更新の経済効果の発現経過 ～試算モデルと事例による分析～
　酪農学園大学紀要第43巻1号（論文）

外部発表資料二次元コード

●酪総研創立50周年記念

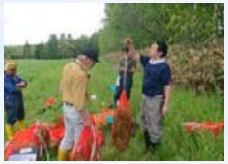
～酪総研新ロゴマーク～
RDCDを牛の顔に組入れて構成。R部分の黄色は、牛の耳標を基に彩色がされている。全体的に丸みを帯びた線でグループ感を創出。このデザインを研究所の新たなロゴマークとして決定した。

～創立50周年記念ロゴマーク～
創立50周年を記念としたデザインにて構成。50と牛をブルーカラーで統一。雪印メグミルク・酪総研・酪農家の三位一体を表現した。このデザインを50周年記念ロゴマークに決定した。

●酪総研グラフィック

実証圃場　現地検討会

雪印メグミルクグループ 酪農研究会


経営実証農家　I番牧草の収量調査

広報・技術普及（動画撮影・SNS）

乳牛の呼気メタンガス濃度測定

酪農家と共に牧草地での植生調査

酪農研究グループ　研究員紹介

副部長
越智成東

担当部長
鶴尾正紀

研究リーダー
柳瀬兼久

研究主事（獣医師）
野﨑則彦

研究員（獣医師）
板坂丞時

研究員
佐々木貴史

研究員
大山冬馬

※関係法令に基づき本要覧内の画像・データ等の無断転用を一切禁じます